

そこで、兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、手紙によって、

2015(27)年 週 報

8月2日
第1聖日
第3415号

「ひざをかがめる」

聖
言

こういうわけで、私はひざをかがめて、天上と地上で家族と呼ばれるすべてのものの名の元である父の前に祈ります。エペソ 3 : 1 4, 1 5

礼拝の恵み 第二一章
第八節 礼拝の障害 (つづき)
第六節 分派心
主を記念しようと思い、信条は健全、その生活は立派であるような人を、歓迎しようとしなない信者の集会について、なんと言ったらよいか。こうした恥ずべき神を軽んじる事は人々が考えている以上にしばしば起こっている。それがその集会の損失になることは言うまでもない。神の作られた単一性を認めることを拒むことにより、その集団礼拝は妨げられる。こうした分派心のコリント教会の人々にパウロは聖霊によって、「神は真実な神である。あなたがたは神によって召され、御子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに、はいらせていただいたのである」(「コリ一ノ九」と書いた。「交わり」という単語はここでは、すべての信者に用いられているが、これを一小分派に限局する心配がある。)と云うときは、「あれはわれわれと交わりを持つていないが、キリストにあつて愛する兄弟だ」というような言葉が聞かれる。なんとという言葉の矛盾であろう。その人がキリストにあつて愛する兄弟であり、こうした主を記念したいと願うなら、そのような人が主の食卓に参加するのを拒み、それによって「御子の交わり」を自分勝手な小さな仲間に限局することは災いである。(「礼拝」ギブス)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話 : F A X (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一五年七月二六日午前一〇時 礼拝 山本牧

「苦難の栄光」

「ですから、私があなたがたのために受けている苦難のゆえに落胆することのないようお願いします。私の受けている苦しみは、そのまま、あなたがたの栄光なのです。」（エペソ三ノ一三）

祈り

一期一会とありますように、すべての営みは最初で最後かも知れません。愛する兄弟姉妹と囲んだ楽しい食事も、またいまおこなっている礼拝も、この瞬間、瞬間が走馬灯のようにおこなす、永遠の中に描かれる一コマであります。ゆえに、ないよりもまして、大切に感謝をもつて、うやうやしく、また、喜びと信仰をもって礼拝をおささげできるように聖霊を注いでください。願わくば、まだ経験されていない方に聖霊のバプテスマを夕立のごとく注いで下さい。今だからって体験したことのない、信仰体験をさせて、主イエスをまますます、大好きになるように、聖書がますます大好きになるようにしてください。そして、伝道することが喜びと使命となるようにしてください。戦争法案が可決して日本人が外国人を殺し殺される時代に、イエス様のように、パウロのように、苦難の中にこそ、神様の福音が多くの人々の心にとどくことが出来るようにしてください。主イエス様のお名前によりお祈りいたします。アーメン

教会成長と存続は緊急課題です。社会のカナリヤのような存在の教会は社会の何十年先の姿を現わしています。紺本先生の関係ない人がこの教会を継ぐのか。現代人は聖書の話に拒絶反応を持っている。だから、面白い話のために話をする短く簡

単に話す。教会を思つての貴重なご意見です。私は問題の大半は牧師の霊性と考えています。もう一つは教会の私物化であります。教会は牧師のものか。一部の信者のものか。そうでありません。イエス様の教会であり、全信者の教会であり、イエス様を求める方々のものであり、地域のものであります。この教会が神様の栄光の宝です。

そのためにはなにをなさなければならぬでしょうか。企業の経営戦略をとりいれていくべきでしょうか。教会が合併して維持するべきでしょうか。デイサービを参考にして、教会の空間を利用して地域のサロンとするべきでしょうか。70年の歴史を活用して教会信者の家族と関係者を優先的にする。牧師と共に働く有能な同労者が与えられる。どれもこれも大切であります。しかし、それよりも、重要なことは、聖書の中にある教会成長の秘訣です。

パウロは囚人でありました。自由の束縛された、命と人権さえ無視された中にありました。だから、後継者がいないとか、現代人に応じた話をしなければだめだという悠長な場合でないのかかわらず、教会はどんだん、救われる人々が起こされました。聖霊のバプテスマが毎日のように個人的に与えられました。それは悩みの中にこそ神様の栄光が表されるのです。その代表は十字架のゆえにこそ、あの当時、一番残酷で目を背けるような死刑の道具に神の栄光が現れました。その上に神の御子が磔にされたのです。ゆえにわたしたちはこれさえなければ、幸福になれるだろうと考える、自分自身の棘を誇りましょう。極端な言い方ですが、感謝しましょう。ヨハネ9章に生まれつき盲人の方がいました。弟子は彼の罪のためですか。とイエス様にお尋ねしました。それはこの人の罪でも親の罪でもありません。神様の業、神様の栄光があらわれるためです。私たちが、おわされた重荷は栄光の冠です。それを通して神様の栄光が輝き出します。

二〇一五年七月二九日午後七時 祈祷会 山本牧師
「驚くべき神の教会③」

「彼はまた、本堂に面して長さ二〇キュビト、幅二〇キュビトを測って、私に『これが至聖所だ。』と言った。」(エゼキエル四一ノ四) 一、神殿の本堂 四〇ノ四八ノ四一ノ四

御使いはエゼキエルを、いよいよ神殿の本堂に案内する。本堂こそ、神殿の本体とも言うべき最も重要な建物である。新約聖書で「神殿」と言えば、「ギリシヤ語ナオス」といえば、この本堂のことを指し、神殿全体を表す場合には「宮(エロン)」という別のことばを用いている。イエス・キリストが「この神殿をこわしてみなさい。わたしは、三日でそれを建てよう。」(ヨハネ二ノ一九)と言われた「神殿はこの、本堂のことである。本堂の造りは、入り口のほうから階段、玄関の間、聖所(本堂)、至聖所となっており、ソロモンの神殿の場合と同じである。その大きさも同じで、間口が二〇キュビト、聖所の奥行きが四〇キュビト、至聖所の奥行きが二〇キュビトとなっている。一番外側の入り口は幅一四キュビト、変換の間から聖所への入り口は幅一〇キュビト、聖所から至聖所への入り口は幅六キュビトとなっていて、奥に行くほど、狭くなっている。これは、外から奥に入り込むに従って、主の臨在に近づいて行くことになり、当然、聖さの標準も次第に高くなって行くが、そういう霊的な意味が本堂の構造にも現れたものと思われる。

至聖所は年に一回それも大祭司しかはいれない聖なる場所です。へブル四章にはイスラエルの民が四〇年間荒野をさまざまい、約束の地に入れなかったことを安息に入れなかったと解釈している。エゼキエルは祭司だから、至聖所の幻を示されたことで神の御ところが理解でき、本堂から至聖所まで三つの入り口を通らねばならない。それが一四、一〇、六キュビトと狭くなっている。これは、外から奥に入り込むに従って、主の臨在に近づいて行くことになり、当然、聖さの標準も次第に高くなって行くが、

そういう霊的な意味が本堂の構造にも現れたものと思われる。「狭い門からはいりなさい。滅びに至る門は大きく、その満ちの赦しを信じたなら神の子となり、永遠の生命を与えられる。天の父は神の子に父の御ところを知って欲しい。ゆえに信仰生涯は狭い、厳しいみちなのである。それだけでなく、至聖所に大祭司しか味わえない天の饗宴に与ることができる。へブル書では安息に入ると書く。

「ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいで、おりにかなった助けをうえるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」(へブル四)。

「年に三度、わたしのために祭りを行なわなければならない。」
(出エジプト二二ノ一四)

2015

信、望、愛

かりいおの祭り

再臨と聖潔

日時 8月14日(金)

午前10時「信、望、愛」Iテサロニケ1:3 山本牧師
午後2時「聖潔の勧め」Iテサロニケ4:12 足達牧師
午後7時「再臨に備える生活」Iテサロニケ5 西田牧師

費用 千円(大人・子ども同額)昼・夕食

聖成基督教団
イエス・キリスト聖成伝道教会
神戸市長田区長田町1-2-6 TEL.691-1419

「とすれば、なおのこと、天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さらないことがありましよう。」(ルカ一ノ一三)